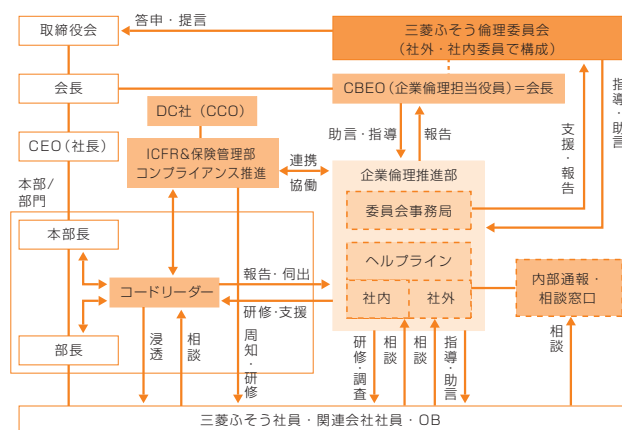


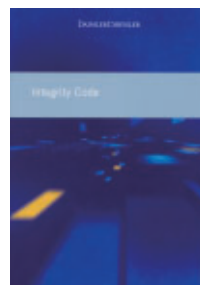
企業倫理の取り組み

企業倫理管理体制(組織)2007年6月現在



三菱ふそうは、ダイムラー・クライスラー（以下DC）・トラックグループの一員として全世界のDC関連企業に適用されているDC社の『インテグリティコード（倫理規定）』に沿って企業活動を行っています。更にDCグループ会社としてDC社の倫理規定を具体的に解説した『コンプライアンスに関するポリシーとガイドライン』（2006年10月制定）に基づき、コンプライアンス浸透のための諸施策を推進しています。

また、三菱ふそうグループとしてコンプライアンス推進体制を確立し、以下のようなコンプライアンスの定着に向けた具体的な取り組みを行っています。



Shashidhar Chennareddy

**Anti-Bribery-related
Corporate Policies & Guidelines**

コンプライアンスに関する
ポリシーとガイドライン (DC社)

(1) 三菱ふそう行動指針

三菱ふそう社員が、日常業務を遂行する上での諸問題を解決し行動するための拠り所となる指針として2003年10月に制定されました。本指針の内容は2006年10月にDC社の倫理規定との整合性をとり、更に三菱ふそうの社員が判り易いよう改訂されました。

(2) 三菱ふそうコンプライアンス憲章とカード

三菱ふそうグループのコンプライアンスに対する基本的な考え方を示した『三菱ふそうコンプライアンス憲章』を策定しています。この憲章を記載しその浸透を図るとともに、社員一人ひとりが日常の行動をセルフチェックするツールとして、コンプライアンスカードを作成しました。このカードは全社員に配布されており、社員はこのカードを常時携帯することとしています。



コンプライアンスカード

(3) 職場コードリーダー制度

職場ごとにコンプライアンスの推進役となるコードリーダーを2年任期で選任しています（現在、サブ・リーダーも含め、73名が選任されている）。コードリーダーはコンプライアンス施策が社員一人ひとりにまで浸透するように各職場での展開活動推進役、および社員からの疑問・意見等の収集役となって、各職場における企業倫理推進の中心的な役割を担っています。

(4) 三菱ふそう倫理委員会

社外から有識者に参加いただき、新たに2005年の1月に発足致しました（現在は社外5名、社内2名の7名体制）。三菱ふそうのコンプライアンス取り組みについて社外の視点から、企業としてあるべき姿についての助言・提言をいただいております。この委員会は取締役会の諮問機関として位置付けられ、2ヶ月に一度、定例委員会を開催し（2006年は臨時開催も含め合計9回開催）、会社が

行なった企業倫理に関する施策の実施報告等に対し、都度、ご意見・ご指導を頂くと同時に、委員会として取締役会へ答申・提言も行なっています。



ふそう倫理委員会

(5) 社員コンプライアンス教育・研修

コンプライアンス担当部門の主催により全管理職を対象にした法令研修、およびコンプライアンス研修会を実施しています。各職場への展開は、社員一人ひとりにまで浸透するように研修を受けた管理職が配下社員教育を実施しています。



コンプライアンス研修

(6) 社員相談・通報窓口

自浄プロセスの向上を図ることを目的として、社内相談窓口として『社員相談室』を設置し、社外相談窓口としては社外弁護士へ委嘱し『社外ヘルプライン』を開設しています。これらは公益通報者保護法における内部通報、または事前相談の窓口ともなっております。

(7) 三菱ふそうグループコンプライアンス

三菱ふそうの関連会社はグループ共通のコンプライアンス憲章を共有し、また三菱ふそうが取り進めるコンプライアンスに関する基本的な考え方や取り組みについて、個々に三菱ふそうが説明しています。コンプライアンスに関する教育・研修についても、三菱ふそうと連携し実施しています。

品質向上

私たちの提供するクルマ・サービスによって、お客様にただ満足していただくだけでなく、感動していただきたいというのが私たちの目標です。

そのために、私たちは品質は全ての業務活動において最優先課題であり、「魔法の杖はない」ことを心に留め、日々の地道な改善と新しいしくみへの活動・チャレンジが、お客様の期待を超えることへつながると信じています。

クルマづくりへの取り組み

お客様の期待を超えるためには、お客様のニーズにあった性能・機能を持っていること、また、安全で信頼度が高くお客様に迷惑をかけない均一な品質のクルマであること、さらには、万が一、クルマに不具合が起きた場合に適切で迅速なサービスを提供できることが必要であると考えています。

そのために、私たちは次のような活動を行っています。

ISO9001活動

三菱ふそうは2006年3月にISO9001の認証を取得しました。この中で、品質方針として「信頼度No.1企業へ」を掲げ活動中です。

品質とは、全社のプロセスの活動の結果であり、品質改善とは、全てのプロセスの改善を継続的に図ることであると考えます。私たちは、すべてのプロセスにおいて、「質の向上」（＝お客様の満足）を目指し、目標を設定しその達成に励んでいます。

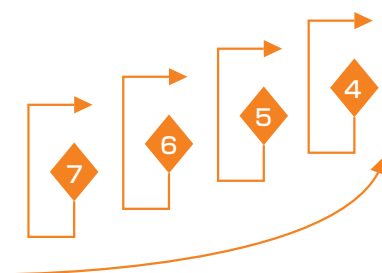


ISO9001:2000認定証の取得

クルマの開発

私たちはFusoの開発の仕組みに対し、タイムラー商用車部門のコンセプトを反映するとともに、ハーモナイズさせたFPD(Fuso Product Development)という商品開発のしくみを使用しクルマづくりを行っています。お客様の視点に立った車に対する顧客・市場要望を把握する計画初期段階から、開発・製造を経て世の中に出るまでに行わなければならないことを明確に取り決めて、クオリティゲートという関門を通過しなければ次のステップへ移ることが出来ないという厳格な開発のしくみです。合わせてライフサイクルを通じた商品開発のマネジメントを充実する仕組みとしています。(43ページ参照)

プロセス管理の概念図



クルマの造りこみ

言うまでもなく品質は工程で造りこむものであり、「不具合を作らない」、「不具合を流さない」を基本に日々継続して改善に取り組み、Fusoの商品を安心して使っただけのよういろいろな工夫、厳密な品質管理体制を製造部門に取り入れています。

製造ラインの各工程では、一人一人が自分の担当の工程を品質保証することを徹底し、不具合のでない体制を整えています。その上で、品質面での重要工程にクオリティチェックゲート/クオリティゲートを設け、専門チェック員を配置してインライン並びに完成工程での検査をするとともに、完成後の最終検査を実施することで品質確保の確実化を図っています。

又、私たちは、品質を向上させるため、工程変更を極力少なくする工夫・取り組みなども行なっています。さらに、工場の中の部品の量も従来に比べ大幅に削減しスッキリさせることにより、工場の状況が一目でわかるようになり、更に部品のキット化で作業間違いをなくしたりなど作業者が作業をやりやすく工程を安定するなどの工夫も行っています。

お客様対応と技術サービス業務の機能強化

サービス業務は、私たちとお客様との接点となる非常に重要な役割を持っています。この役割をさらに強化するための取り組みとして、従来からのお客様窓口業務機能に加えて、特に技術サービス関係業務について私たちとお客様の双方向のコミュニケーションを強化し、お客様のニーズやディーラーからの技術的な情報を迅速に集め、より早く、製品やサービスに反映するとともに、私たちからのさまざまな情報をディーラーやお客様にタイムリーに発信する一元管理の機能を持った組織を作りました。

リコールへの迅速な対応と体制

多くの部品の集合体で、複雑な製造工程を経て造られるということを言い訳には出来ませんが、残念ながら予期せぬ不具合が起きてしまうことがあります。

私たちは、そのようなお客様からいただく品質に関するご意見やお問い合わせはもっとも貴重な情報と位置づけ、必要があれば社内に展開し、クロスファンクショナルな組織（CFT）で調査・分析し問題解決にあたっています。

また、リコールの実施判断についてはこのCFTを中心に公正と透明性を保ちながら行い、以前の過ちを繰り返さない仕組みを設けています。

品質月間

毎年11月は品質月間です。2006年、当社は「実行委員会」を組織し、独自のスローガン「見直そう仕事の質高めようふそうの品質」を掲げて下記の行事を実施しました。

◎品質月間関連の提示

社旗と並んで「Q旗」の掲揚、立て看板・ポスター・標語を提示しました。

◎テキストの配布

品質月間テキスト（実行委員会作成）を各職場に配布しました。

◎ふそう品質フォーラム2006 Part1（11月17日開催）

- ・品質工学活用事例発表（社内での活用事例）
- ・品質工学講演会

◎ふそう品質フォーラム2006 Part2（11月24日開催）

- ・統計的品質管理手法（SQC）改善事例発表
- ・長谷川品質保証本部長による講話
- ・販売部門幹部講話
- ・社内各部門による改善効果確認・総括



ふそう品質フォーラム（2006年11月24日）
右は長谷川品質保証本部長

品質向上

FPD (Fuso Product Development)



◎FPDの概要

三菱ふそうはFPDという商品開発プロセスを使用した製品作りを行っています。

これは従来のFUSOクオリティチェックゲート (QCG) に対し、DC (ダイムラー・クライスラー) 商用車部門のクオリティゲート (CV-DS) のコンセプトを取り入れてプロセスを見直したものです。FPDには、品質重視の考えから、新たなクオリティゲートが追加されると同時に、ゲートを通過するための基準や各ゲートの成果物が明確化されています。

◎FPDのプロセス

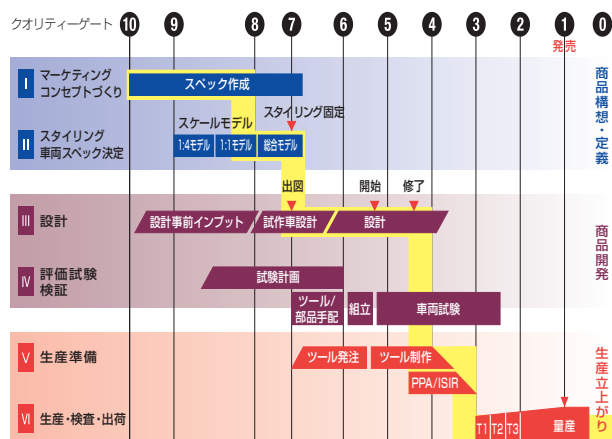
FPDには車両プロセス (QG 10からQG 0) とパワートレインプロセス (QG P8からQG P1) の2つのプロセスがあります。これにより、

◇異なる要件/内容を考慮し、商品開発プロセス全体の複雑性を低減させること

◇車両開発の時期を待たずに、パワートレインのプラットフォームをグローバルに統合化すること

が可能となります。2つのプロセスの主な同期点を決定し、プロセスを統合させることが重要なポイントです。

FPD (Fuso Product Development) プロセス



開発プロセス全体をゲート10から0迄のクオリティゲートにより区分する

◎FPD導入のメリット

(1) フロントローディングによる商品開発の効率化

フロントローディングとは「仕事の前倒し」という意味で、クロスファンクショナルな取り組みにより早期にお客様の視点に立った車両に対する市場要望を把握し、それをコンポーネントの仕様要件にまで落とし込むプロセスを意味します。これにより、スペック最終化以降の設計変更作業を最小限に抑え、商品開発効率化を図ることができます。

(2) クオリティゲート/プロセス管理によるプロセス品質の確保

◇明確なプロセスと評価基準の定義

FPDでは各クオリティゲートを通過する必要条件として、成果物が明確に定義されており、各プロセスで何をしなくてはならないかを正確に把握できます。これにより、ふそうの全てのプロジェクトにおいて同じプロセス定義に従った運用が可能です。

◇プロセスの透明性の確保による課題への早期対応

ふそうプロダクトコミッティー (FPC) が商品プロジェクトのクオリティゲート通過判定に関する責任を担っており、ここでクオリティゲートに関するあらゆる説明、確認が行われます。また、課題への対応もいち早く実行されます。

◎FPD説明会

社内の各部門へのFPDの理解度向上、活用の充実化を図るため、2007年2月～3月に、各本部の管理職を対象としたFPDの説明会を開催しました。

本社 (新川崎)、川崎工場、喜連川研究所、大江工場、MFBM (富山) において説明会を行い、合計1,032名が出席しました。



FPD説明会

お客様との関わり

お客様相談センター

お客様相談センターは、お客様と直接接する窓口として、お客様からの幅広いご相談（お問合せ・ご意見等）に対応しています。

同センターでは、お客様にご満足頂くため、「迅速・的確・真摯」に対応するよう努めています。また、お客様から寄せられた貴重な声は、社内担当部門へフィードバックし、商品開発・販売・サービス活動におけるCS向上に役立てています。

三菱ふそうお客様相談センター

電話番号：0120-324-230（全国共通フリーダイヤル）

受付時間：月～金（除く所定の休日）

9:00～12:00 13:00～17:00

お客様への情報の提供

三菱ふそうは、インターネットホームページを通じて、様々な情報をタイムリーに且つ継続的に提供しています。

商品・技術情報、企業情報、ニュースリリース、環境への取り組み、リコール情報等があり、リコール情報のページでは、お客様のお車が「リコール・改善対策及びサービスキャンペーン」の対象車両に該当するかどうかを自動検索することが出来ます。



三菱ふそうホームページ
(<http://www.mitsubishi-fuso.com/>)

「ふそう耳より情報」の発行

2005年6月から、お客様が安心・安全にお車をお使いいただくために、車両整備や故障の予防策、不正改造防止に関する知識などを盛り込んだ「ふそう耳より情報」を発行しています。



三菱ふそう耳より情報

人にやさしい製品の普及

低床バス

近年、身体障害者の方々の社会参画や高齢化の進行への対応といったニーズによって各自動車メーカーから「福祉車両」と呼ばれる車が続々と発売されています。その中でも交通バリアフリー法に代表される公共交通のニーズは一層高まっています。三菱ふそうは1997年に国内初の大型低床バスを「ノンステップバス」として発売したのを皮切りに、標準仕様ノンステップバス認定制度への適合と低床バスの普及に努めてきました。

ローザチェアデッキバージョン

小型バス「ローザ」では車いすのまま乗り込むためのリフトや車いす固定装置等を装備したチェアデッキバージョンをラインナップし、福祉施設、病院などの送迎で活躍しています。2006年4月に大阪で行われた福祉機器展の「バリアフリー2006」、5月に名古屋で行われた「ウェルフェア2006」にもチェアデッキバージョンを出展しています。また、その出展車両は5月に行われた「三菱ダイヤモンドカップゴルフ2006」のチャリティ基金により神戸市社会福祉協議会に寄贈されました。



ローザ チェアデッキバージョン



バリアフリー2006

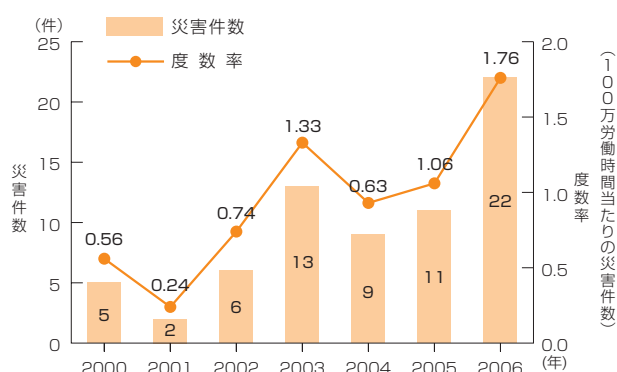
従業員との関わり

安全・衛生

(1) 労働安全

安全で作業者に優しい職場環境の実現に向け、「社員の安全と健康の確保は全てに優先する」ことを基本理念として、全員参加で労働災害防止活動を継続的に推進しています。活動は、①安全に行動できる人づくり②決めた事が確実に守られる職場風土づくり③安全な設備づくり④類似災害を発生させない体制づくりーを中心に災害の根絶に努めています。2006年の災害は、作業者の経験不足等による危険意識の低下や教育・指導が徹底されていない等の原因により前年に比べて倍増という結果となりました。この結果を真摯に受けとめ、本年は労働災害防止活動を強力に推進しています。

災害発生状況



(2) 交通安全

社員の交通事故防止や意識の向上を目指し、交通安全講習会や通勤時の車両・自転車運転者、歩行者への交通指導を実施しています。また、社員教育の一環として車両運転時の危険感受度テストを実施し、感受性や認知度等のアドバイスをを行っています。

(3) 快適な職場づくり

社員が働きやすい職場環境を形成するため、各種専門委員会等を設置し、現場をはじめとした全般的な作業環境改善を計画的に推進しています。

(4) 健康づくり

「健康は自らつくり管理するもの」という考えを基本に社員個人や職場に対し、産業医、保健師による健康支援活動を推進しています。主な活動としては健康診断結果に基づくフォローをはじめ、各職場に出向きテーマ別に教育指導を行う「健康づくり宅配便」等を実施しています。

(5) メンタルヘルス

精神科医やカウンセラーの他、保健師等により相談しやすい体制をつくり対応しています。

また、社員に対しメンタルヘルスに関する教育を実施しています。

アスベスト(石綿)への取り組み

三菱ふそうは、2006年秋にアスベスト含有製品を扱った可能性のある社員の健康診断を実施しました。

また、アスベストを含有する建造物の調査も順次行っており、これまでの調査結果では人体に及ぼす影響は少ないと思われますが、今後アスベストの除去や代替品への切り替えを順次行っていく予定です。

なお、2006年8月に亡くなられた弊社元社員の方に対し、2006年12月20日に労災が認定されました。

人事制度

三菱ふそうは、商用車業界の厳しい経営環境の中で、グローバル企業として発展していく必要があります。

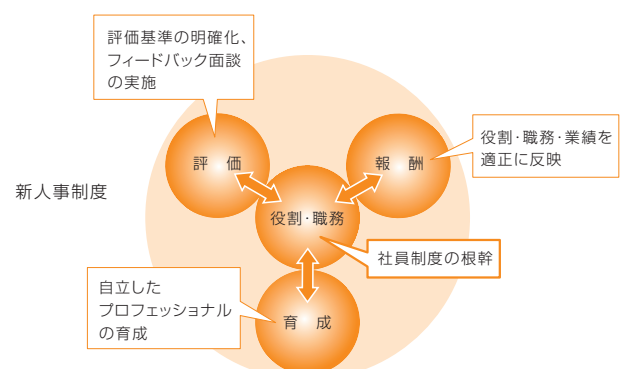
社員の更なる努力を引き出すため、以下のような考え方で人材を有効活用していきます。

[社員制度のポイント]

役割・職務を中心に、評価・報酬・育成それぞれが密接に関係し機能します。例えば、評価は、報酬を決定するだけでなく、育成施策や役割・職務の変更を考える際のベースになります。

[社員制度の運用方針]

当社の人事制度は「上司と部下が積極的に対話し、考え、実践し、成功体験を積むことで、互いに成長していく」ための仕組みです。PDCAのサイクルを機能させ、また、適切なコミュニケーション(特に、フィードバック)を行うことが、個人と組織の成長の原動力となっています。

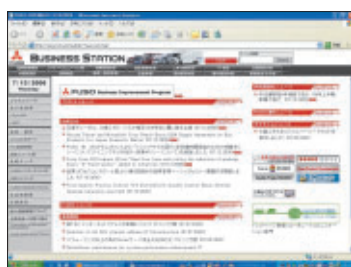


社内コミュニケーション

三菱ふそうは以下のような各種の社内コミュニケーションを実施しています。全社員または各階層が必要な情報を正確かつタイムリーに共有し、問題意識を共有することは、会社経営上、重要と考えています。

◎イントラネット

“Business Station”をトップページとしたサイトを開設し、トップからのメッセージ、各種お知らせ、社内外ニュースなどの情報を提供しています。



Business Station

◎社内報

“FUSO TIMES”を毎月発行し、全社員に配布しています。経営トップのインタビューから、各種イベントや各部門での出来事まで、幅広い情報を提供しています。



FUSO TIMES

◎タウンホールミーティング

社長からダイレクトなメッセージを全社員に伝えるために開催されます。2006年11、12月に、川崎、品川、喜連川、中津、大江、富山で開催されました。



タウンホールミーティング
(2006年12月、富山)

◎社員相談室

社内外のヘルプラインからなる体制を構築し、内部通報者の保護を社内標準で規定した上で、コンプライアンス強化、自浄プロセスの向上などを図っています。(40ページ参照)

お弁当トーク

社長と会長が6～10名の社員を招待して約1時間、お弁当を食べながら和やかな雰囲気の中で会話が行われます。

このお弁当トークの目的は、社員と経営陣の直接対話により相互理解をさらに深め、社内コミュニケーションの活性化を図ることです。同時に、世代・職制・部門が異なる参加者間のコミュニケーション向上も狙いとしています。



お弁当トーク(2006年12月)

家族工場見学会

社員のご家族の方々に、社員の働く姿や職場環境を知って頂くことを目的に、毎年1回、労働組合主催により家族工場見学会を開催しています。2006年8月23日の川崎工場見学会には200名のご家族が参加し、労組執行委員長の挨拶、工場見学、食堂における昼食、質疑応答が行われました。また、24日には大江工場においても同様の見学会が開催され、30名のご家族が参加しました。



川崎工場見学会



大江工場見学会

福祉活動

被災者支援

2006年5月27日にインドネシア ジャワ島で発生した地震による被災者の方々に対する支援策として、三菱ふそうは、現地販売店であるPT. Krama Yudha Tiga Berlian Motors (KTB)を通じてインドネシア赤十字社に小型トラック キャンターを10台寄贈しました。これらのトラックは医療品、食料、飲料、テントなどの救援物資の輸送に使われました。



寄贈されたキャンター

2007年7月に発生した新潟中越沖地震に被災された地域の復旧作業にお役立て頂くため、当社は、刈羽村（かりわむら）と柏崎市に小型トラック「キャンター」を1台づつ寄贈しました。



品田村長と江頭会長



若山副市長と江頭会長

送迎バスによる美術館見学支援

三菱ふそうは、小学生たちが美術館を見学する際に送迎バスを提供するプロジェクトを2006年から実施しています。現在までに、東京都現代美術館、東京都写真美術館などの見学に際し、送迎バスを提供し、子供たち・学校・美術館から毎回ご好評を頂いています。



見学者送迎用バス

その他の社会活動

スポーツ活動

◎野球

三菱ふそう硬式野球部は、社会人野球の名門であり都市対抗野球に地区代表として18回出場し、2000年・2003年・2005年と3回の優勝を果たしています。また、日本代表選手やプロ野球選手も輩出しており、日本野球の発展に大きく貢献しています。



第77回都市対抗野球

◎サッカー

三菱ふそうは、Jリーグ「浦和レッドダイヤモンズ」のユニフォームスポンサーを務めています。浦和レッズは2006年シーズンJリーグ1部優勝および第86回天皇杯優勝を果たすことができました。

今後も浦和レッズを応援していきます。



浦和レッドダイヤモンズ

◎三浦国際マラソン

三菱ふそうは、スポーツを通じて健康増進を図ることを主目的として、1989年から毎年、三浦国際市民マラソンへの特別協賛を行っています。



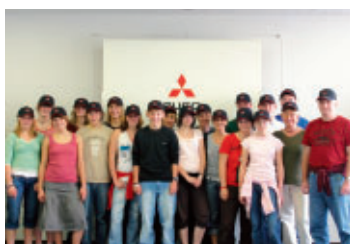
三浦国際市民マラソン

日独文化交流

2005～2006年に、日独両国友好のために展開されたプロジェクト、「日本におけるドイツ年2005/2006」の一環として、三菱ふそうは次のような日独交流プログラムに参加しました。

◎たけのこプログラム（日独高校生交流）

同プログラムは、日独両国の高校生を対象に、渡航費用の一部を支援するものです。日独両国の高校生が互いの文化への関心を高め、両国の青少年の交流が深まることを目的に、ダイムラー・クライスラー（以下DC）と三菱ふそうは共同スポンサーになってこのプログラムを設立しました。三菱ふそうは2005年から3年間、10万ユーロ/年の資金を援助します。



工場見学に訪れたドイツ高校生（2006年10月）

◎ガラ・コンサート

2006年2月、DC社と三菱ふそうの招待により、ヴェルテンベルグ・フィルハーモニー管弦楽団の「ガラ・コンサート」が東京オペラシティコンサートホールで開催されました。同楽団はDCの本社があるシュツットガルト近郊を本拠地とする楽団です。同楽団の音楽総監督である飯森範親氏の指揮によりベートーヴェンの交響曲が演奏されました。



ガラ・コンサート（2006年2月）

◎Jan Vogler氏 コンサート

DC社は2006年11月、世界的に有名なドイツ人チェロ奏者、Jan Vogler氏のコンサートを東京で開催しました。三菱ふそうは駐日ドイツ大使館とともにこれを協賛しました。このコンサートには、各国の大使の方々を含め、約80名の方々が来場しました。



Jan Vogler氏

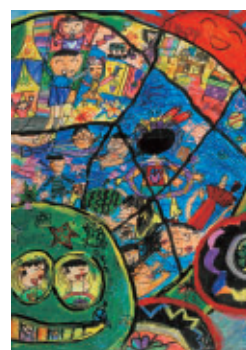
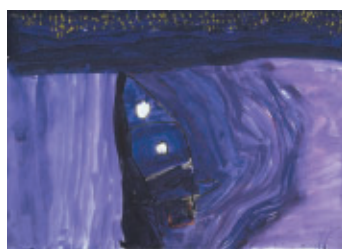
スケッチコンクール

三菱ふそうは夏の恒例行事として、全国の幼稚園児・保育園児を対象とした「サマースケッチコンクール」を実施しています。

日ごろ子供たちの回りで働くトラック・バスや、こんな乗り物があったら楽しいなと思う未来の乗り物などを、豊かな感性で描いてもらおうと企画されたものです。

2006年は合計706園から約5万4千点の応募作品を収集しました。現代画壇の第一人者として活躍中の山本貞貞先生を委員長とした審査員による審査の結果、最優秀賞3名、優秀賞5名、準優秀賞10名、そして佳作70名が選出され、賞品が贈呈されました。

また、当社は2007年1月に、アートスペース リビーナ（東京都港区）において、入賞した作品88点の展示会を開催しました。



最優秀賞3作品

地域社会への貢献

地域の方々/団体との共生

三菱ふそうは、下記の活動を通して地域の方々との交流・融和を目指しています。

項目	内容
工場見学会	・ 地域の方々、小学校、団体、社員の家族等を対象に実施 2006年度見学者数 約3,000人
学校への協力	・ 市内小学校対象の野球教室を開催 ・ 地元小学校への写真付ニュースの提供
会社施設の開放	・ 体育館等を地域に開放
地元自治会への加入	・ 祭り、フェスティバル等への協賛
環境関連等団体への参加や寄付	・ 地域社会の活動に対する支援
地域の清掃・緑化	・ 工場周辺の清掃活動 ・ 川崎市主催緑化運動「花と緑のある街づくり」への参加



小学生工場見学



大江工場周辺の清掃活動

江頭会長、川崎市を表敬訪問

三菱ふそうは2007年1月、本社を川崎市に移転しました。1月5日には江頭会長が阿部川崎市市長を訪問し、当社が川崎市の企業市民として地域社会に溶け込み、地域とともに発展していく決意を報告しました。そして同市の福祉団体にキャンター エコ ハイブリッドを1台寄贈しました。



左:江頭会長 右:阿部川崎市市長

野球教室

2006年12月、三菱ふそう硬式野球部による少年野球教室が開催されました。当教室は、地域少年野球チームからの強いご要望によりスタートし、今回で5回目になります。川崎市中原区の少年野球14チーム、約100名が参加し、大盛況でした。



小学生野球教室

浦和レッズ ハートフルスクール in インドネシア

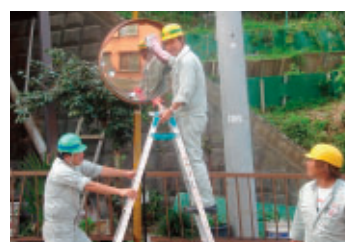
2007年4月28、29日、浦和レッズはインドネシアにおいて、インドネシア人小学生や現地在住日本人小学生を対象にサッカー教室を開催し、三菱ふそうはこれを協賛しました。当スクールは、浦和レッズがAFCチャンピオンズリーグというアジアの舞台に初めて挑戦するのに伴い、草の根国際交流による豊かな社会作りへの貢献を目的として企画されたものです。



レッズ ハートフルスクール

作業長会「社会貢献活動」

2006年10月、三菱ふそうの作業長会は自らの発案により、川崎工場周辺および中原区内のカーブミラー点検・清掃およびゴミ拾いを実施しました。2日間で延べ54名の作業長が参加し、カーブミラー465本の清掃を行いました。



カーブミラー清掃作業

新任マネージャー「ソーシャルワーク研修」

三菱ふそうは2006年10～11月、新任マネージャー研修の集大成として、社会貢献活動を実施しました。昨年度から始まった同研修は、マネジメントとしての自覚を持った新任マネージャーが、会社と社会の共生を考え、自分たちで社会貢献活動を企画・実行するものです。今回は46名の新任マネージャーが3つのグループに分かれて次のプロジェクトを実施しました。

(1) チーム「グループわん」

中原平和公園の清掃活動（雑草除去、ゴミ収集、銅像清掃）



チーム「グループわん」



「平和の彫刻」の清掃

(2) チーム「児童を事故から守り隊」

大田区立徳持小、中原区立荻宿小の児童への交通安全教室（トラックを用いた「死角」「内輪差」体験、運転席の着座体験）



チーム「児童を事故から守り隊」



「死角」の体験

(3) チーム「はじめての一步」

平間駅・新川崎駅～川崎工場通勤経路における路上禁煙の啓発活動、清掃活動、当社社員への周知



チーム「はじめての一步」



平間駅前「歩行禁煙」呼びかけ

川崎市化学物質に関する リスクコミュニケーションを進める会

当会は化学物質による環境リスクの低減を目的に、市民・事業者・行政が化学物質の環境リスクについて情報・意見交換を行うもので、定期的に勉強会・報告会を開催しています。三菱ふそうは2003年から当会の委員になっています。

2007年2月20日、第12回会議が当社の川崎工場で開催され、当社の環境取り組みの説明、昨年完成した塗装工場、車両組立工場、エンジン組立工場の見学及び質疑応答などが行われました。

かわさき新エネルギー・環境展

2007年2月24、25日、ラゾーナ川崎プラザ隣地（JR川崎駅西口会場）で開催された同展示会に、キャンターエコ ハイブリッドを出展しました。これは、地球温暖化問題の啓発および新エネルギー・環境産業の振興を目的に川崎市が主催する「川崎発ストップ温暖化展」の一環として実施されたものです。



かわさき新エネルギー・環境展